

# 令和6年度自己評価計画最終報告

石川県立金沢泉丘高等学校（通信制課程）

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 家庭の理解と協力を得ながら個に応じた働きかけをより多く行うことで、生徒への学習支援を積極的に行い、報告課題の提出状況や出席日数の改善を図るとともに修得率を上げる。	①生徒が報告課題を計画的に提出できるよう、「年間計画表」の積極的な活用をすすめる。 そのために「学習進度表」の生徒への定期的な郵送と、学校配信メールやオンライン学習システムを活用し「教務のお知らせ」を発信する。 また、ICTツールを活用することでスクーリングの充実を図る。	第1期締切までに報告課題を提出した生徒のうち、定期試験を受験した生徒の割合が A 75%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【判定 B】 前期受験率 78.8% 後期受験率 74.1%  (昨年度：判定B) 前期受験率 77.6% 後期受験率 71.0%	・レポートをしっかりと提出し、試験を受験できる生徒が年々増加してきている。 ・受験率の向上は、単位修得率の向上に繋がることから、Google Classroomの全員登録から、その効果的な運用、スクーリングやレポートの質の向上を今後も進めていく。
	②教職員が報告課題の作成に困難を感じている生徒に向けて、平日に質問を受ける体制をつくる。また、メールやオンライン学習システム、電話を含めいろいろな形で質問に答える。	メール、FAX、電話やオンライン学習システムで教科や科目の質問をしたのべ生徒数が A 300人以上 B 200人以上 C 100人以上 D 100人未満	【判定 B】 質問者数 259人 質問時間 2387分  (昨年度：判定C) 質問者数 177人 質問時間 2208分	・学校における質問と電話による質問、それぞれにおいて質問者は増加している。今後はGoogle Classroomを利用した質問への対応を進めていく。
2 基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚、自他の生命を尊重する態度の育成を図るため、時間厳守や適切な言葉遣いの励行、法や決まりの意義の理解と遵守など、学校内外を含めた生活活動を見直し、改善を図らせる。	①教職員が登校指導によるあいさつ活動やショートホームルーム等、生徒と関わる場での声かけを通して、相手を尊重する態度の育成を図る。	「自分は生活規律を守っている」という質問によくあてはまると回答した生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	【判定 B】 79.4%  (昨年度：判定C) 68.8%	・生活規律が年々確保されている。今後も学習規律の向上に努めていく。
	②いじめは絶対に許されない行為であることを、ショートホームルーム等で啓発したり、生活体験発表の機会を活かして周知したりするなど、生徒の「他者への思いやりの心」の育成を図り、よりよい学校づくりに努める。	「学校生活は全般的に楽しい」という質問によくあてはまると回答した生徒の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	【判定 D】 39.4%  (昨年度：判定C) 40.1%	・学校生活を楽しみと感じられるように、生徒会活動や生徒会行事をより充実させるとともに、生徒会からの働きかけなどを工夫して参加人数を増やしていく。
	③教職員が「ほけんだより」やショートホームルーム、学校配信メールで身体計測、各種検診の受診を呼びかける。また、検診の日程を受診しやすいよう見直す。	生徒の各種検診の受診率が A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満	【判定 C】 内科検診：53.2% 歯科検診：52.0%  (昨年度：判定C) 内科検診：50.5% 歯科検診：42.4%	・受診率をさらに向上させるため、「ほけんだより」等で健康管理について啓発するとともに、健診時に男性医師・女性医師を配置し、待機時間の短縮を図る。

学校関係者評価委員会の評価	様々な事情により入学する生徒たちが充実した学校生活を送るとともに、卒業者がより多くなることが望まれる。
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策	卒業生は、令和4年度131名、令和5年度163名、令和6年度161名と増加傾向である。今後も後期定期試験受験率の上昇につながるような声かけを行ったり、Google Classroomを活用した質問対応など学習環境を整えたりすることで、一人でも多く卒業生を送り出せるようにしていく。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 生徒一人一人の生活状況を様々な方法でより把握し、教職員間で共有することにより、組織的に支援する体制をつくる。	①保護者懇談会を6月と10月に実施し、生徒に関する認識を共有し、効果的な生徒支援を行う。その際、面談時間を十分に確保するためにスクーリング日の他、平日に実施する。また学校配信メールやオンライン学習システムなどにおいて随時情報を発信し、保護者に学校運営についての協力を求めるとともに、面談について促す。	年度内に担任が1回以上懇談した保護者の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	【判定 D】 前期の生徒人数521人に対して、保護者の懇談人数276人、割合として53.0%。 後期の生徒人数565人に対して、保護者の懇談人数239人、割合として42.3%。 平均すると47.7%。  (昨年度：判定C) 56.4%	・昨年度は前期、後期を通して生徒592人中、保護者との面談数は334人で割合として56.4%で、今年度の懇談人数、割合は、前期、後期とも昨年度を下回っている。原因を分析し一人でも多く懇談するよう努めていく。
	②教職員が生徒理解を深めるため、6月と10月に個別の面談を実施する。面談時間を十分に確保するためにスクーリング日の他、平日に実施する。	活躍生と1回以上面談できた割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	【判定 B】 前期の生徒人数521人に対して、生徒との面談数364人、割合として69.9%。 後期の生徒人数565人に対して、生徒との面談人数350人、割合として61.9%。平均すると65.9%  (昨年度：判定B) 68.2%	・昨年度は前期、後期を通して生徒592人中、生徒との面談数は404人で割合は68.2%で、面談ができていない生徒が3割いる現状を改善するため、電話など連絡を粘り強く取り生徒の現状の把握に努めていく。
4 各種業務の平準化と効率化を図り、ワーク・ライフ・バランスを実現する。	①教職員が各課内での業務の平準化と協力しあえる職場環境を整え、職員のワーク・ライフ・バランスの実現を目指す。	年次休暇を12日以上取得したという教員が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	【判定 D】 41.2% 12日以上取得者7人  (昨年度：判定D) 52.6% 4月から1月末までの平均取得日数は10.4人であった。	・4月から1月末までの平均取得日数は10.1人であった。5日以下の取得が4人いた。 ・時間外勤務の報告で、毎月8割前後が20時間以内に収まっているが、ワーク・ライフ・バランスをより充実させるために、年休取得について今後も推進していく。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
5 様々な行事に参加することで、生徒の自己肯定感を高めるとともに、卒業後の生き方を考えさせ、生徒の能力・適性を踏まえた進路指導やキャリア教育を行い、就業率や進学率を高める。	①進路説明会およびロングホームルームでの就職、進学の流れの説明を通して、生徒が自分の適性・能力を活かし、卒業後の進路決定ができるよう指導する。	アンケートで、進路説明が自分の進路を考えるのに役立ったと答えた生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【判定 A】 97.1% 35名中34名が役立ったと回答  (昨年度) アンケートを実施していない。	・12月のLHにおいて、1・2年生を対象に進路説明を行った。今後も内容をより充実させるとともに、周知方法を工夫することで参加者を増やしていく。
	②生徒が自分の適性を知り、将来就きたい仕事について理解を深められるように、教職員が就労の意義、職業、資格について指導する。学年団、進路、教務、総務課が資料や情報を生徒に与え、総合的な探究の時間などを活用して進路指導を行う。	卒業時に進路が決定している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【判定 C】 73.9% 卒業生161人中、進路決定者119人  (昨年度) 75.5% 卒業生163人中、進路決定者123人	・昨年度は卒業生163人中、進路決定者は123人（75.5%）で昨年度より1.6%減少した。進路課主導で各学年と生徒の進路希望状況の共有や情報交換を深めることで、担任が生徒へ卒業後の進路に向けた情報提供や個別対応が適切にできるようにしていく。
	③STやオンライン学習システムなどで学校行事の魅力をさらに発信していく。	学校行事に参加している生徒の割合がいずれも A 30% B 20% C 10%以上 D 10%未満	【判定 B】 学園祭参加生徒数 20.4% (115人／565人)  (昨年度) 24.9% (149人／599人)	・アンケート項目の親睦を深めることができたかに対して82人中69名（84.1%）の生徒が肯定的な回答をしたことから、参加した生徒や運営に携わった生徒は満足感を得ている。 ・諸行事に参加を促すような場面や方法により周知することで、参加生徒を増やしていく。
学校関係者評価委員会の評価		学びのセーフティーネットとして、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を整備してほしい。		
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策		生徒面談・保護者懇談などから情報収集することで、生徒理解を深めていく。学習面・生活面や卒業後の進路において、より前向きに取り組めるよう生徒会活動などを通して、それぞれの生徒の特性を活かしていく。また、面談に参加できない生徒へは粘り強くコンタクトを取っていく。		